ヨエル書

第一章

一　ペトエルの子ヨエルに臨めるヨホバの言

二　老たる人よ汝ら是を聽けすべて此地に住む者汝ら耳を傾けよ汝らの世あるは汝らの先祖の世

三　にも是のごとき事ありしや　三　汝ら之を子に語り子はまた之をその子に語りその子之を後の代に語りつたへよ

四　噬くらふ蝗虫の遺せる者は群ゐる蝗虫のくらふ所となりその遺せる者はなめつくすおほねむしのくらふ所となりその遺せる者は喫ほろぼす蝗虫の食ふ所となれり

五　醉る者よ汝ら目を醒して泣けすべて酒をのむ者よ哭きさけべあたらしき酒なんぢらの口に絶えたればなり

六　そはことなる民わが國に攻よすればなりその勢ひ強くその數はかられずその齒は獅子の齒のごとくその牙は牝獅子の牙のごとし　七　彼等わが葡萄の樹を荒しわが無花果の樹を折りその皮をはぎはだかにして之を棄つその枝白くなれり

八　汝ら哀哭かなしめ貞女その若かりしときの夫のゆゑに麻布を腰にまとひて哀哭かなしむがごとくせよ

九　素祭　灌祭ともにヨホバの家に絶えヨホバに事ふる祭司等哀傷をなす　一〇　田は荒れ地は哀傷む　是穀物荒はて

一一　新しき酒つき油たえんとすればなり　二　こむぎ大むぎの故をもて農夫羞ぢよ葡萄つくり哭けよ田の禾稼うせはて

一二　たればなり　一三　葡萄樹は枯れ無花果樹は萎れ石榴　椰子　林檎およびの諸の樹は凋みたり是をもて世の人の喜樂かれうせぬ

イ耳二・二　ロ詩七八・四　ハ申二八・三八　耳二・二五　ニ賽三二・一〇　ホ箴三〇・二五、二六、ヘ歌九・八　二七　耳二・二、一一、二五　ト賽五・六　チ箴二・一七　耶三・四　ル耶一二・一一、一四　ヌ耳一・一三、二・一四　ヲ賽二四・七　耳一・一二　ワ耶一四・三四　カ耳一・一〇　ヨ賽二四・一一　四八・三三　詩四・七　賽九・三

タ耳一・八　レ耳一・九　ソ代下二〇・三、四　二・一五、一六　ツ利二三・三六　耶四・八　ネ代下二〇・一三　ナ耶三〇・七　ラ箴一三・六、九　二・一　ム申一二・六、七、一六　オ伯三八・四一　詩一　ヤ耶四・五　耳二・一五　コ耳一・六　二・五、　マ民一〇・五、九　ケ耳一・一五　阿一五　番一・一四、一五　フ歴五・一八、二〇　耳一・一二、一四五　ウ何四・三　キ詩五〇・一五　ノ耶九・一〇　耳二・三　ク王上一七・七、一八　・一五　ア創二・八、一三・一〇　箴五一・三　エ出一〇・一四　テ耳一・一九、二〇　ユ歴九・九　メ耳二・二　サ亞七・一四　キ歴八・七　ヨ歴九・九　ミ耳二・二

一三　祭司よ汝ら麻布を腰にまとひてなきかなしめ祭壇に事ふる者よ汝らなきさけべ神に事ふる者よなんぢら來り麻布をまとひて夜をすごせ其は素祭も灌祭も汝らの神の家に入ことあらざればなり　一四　汝ら斷食を定め集會を設け長老等を集め國の居民をことごとく汝らの神ヱホバの家に集めヱホバにむかひて號呼れよ　一五　あゝその日は禍なるかなヱホバの日近く暴風のごとくに全能者より來らん　一六　我らがまのあたりに食物絶しにあらずや我らの神の家に歡喜と快樂絶しにあらずや　一七　種は土の下に朽ち倉は壞れ廩は圮るそは穀物ほろぼされたればなり　一八　いかに畜獸は哀み鳴くや牛の群は亂れ迷ふ草なければなり羊の群もまた死喪ん　一九　ヱホバよ我なんぢに向ひて呼はらん荒野の諸の草は火にて燒け野の諸の樹は火焰にてやけつくれば　二〇　もまた汝にむかひて呼はらん其は水の流涸はてあれの草火にてやけつくればなり

第二章

一　汝らシオンにて喇叭を吹け我聖山にて音たかく之を吹鳴せ國の民みな慄ひわなゝかんそはヱホバの日きたらんとすればなりすでに近づけり　二　この日は黑くをぐらき日雲むらがるまぐらき日にしてしのゝめの山々にたなびくが如し數おほく勢さかんなる民むれいたらん　三　かゝる者はいにしへよりありしことなくのちの代々の年にもあることとなかるべし　三　火彼らの前を焚き火焰かれらの後にもゆその過ざる前は地エデンのごとくその過しのちは荒はてたる野の如し此をのがれうるもの一としてあることなし　四　彼らの狀は馬のかたちのごとく其馳ありくことは軍馬のごとし　五　その山の巔にとびをどる音は車の轟聲がごとしまた火の稗株をやくおとの如くしてその樣強き民の行伍をたてゝ戰陣にのぞむに似たり　六　そのむかふ

七　ところ諸民戰慄きその面みな色を失ふ　七彼らは勇士のごとくに趨あるき軍人のごとくに石垣に攀のぼる彼ら各
八　各おのが道を進みゆきてその列を亂さず　八彼ら互に推あはず各々その道にしたがひて進み行く彼らは刃に觸る
九　とも身を害はず　九彼らは邑をかけめぐり石垣の上に奔り家に攀登り盜賊のごとくに窓より入る　一〇そのむかふ
一〇　ところ地ゆるぎ天震ひ日も月も暗くなり星その光明を失ふ　一一ヱホバその軍勢の前にて聲をあげたまふ其軍旅
一一　はなはだ大なればなり其言を爲とぐる者は強しヱホバの日は大にして甚だ畏るべきが故に誰かこれに耐ることを
得んや

一二　然どヱホバ言たまふ今にても汝ら斷食と哭泣と悲哀とをなし心をつくして我に歸れ　一三汝ら衣を裂かずし
一三　て心を裂き汝等の神ヱホバに歸るべし彼は恩惠あり憐憫ありかつ怒ることゆるく愛憐大にして災害をなすを悔
一四　たまふなり　一四誰か彼のあるひは立歸り悔て祝福をその後にとめのこし汝らをして素祭と灌祭とをなんぢらの神
ヱホバにさゝげしめたまはじと知んや

一五　汝らシオンにて喇叭を吹きならし斷食を定め公會をよびつどへ　一六民を集めその會を潔くし老たる人をあ
一六　つめ孩童と乳哺子を集め新郎をその室より呼いだし新婦をその密室より呼いだせ　一七而してヱホバに事ふる祭司
一七　等は廊と祭壇の間にて泣て言へヱホバよ汝の民を赦したまへ汝の產業を恥辱しめらるゝに任せ之を異邦人に治
めさする勿れ何ぞ異邦人をして彼らの神は何處にあると言しむべけんや

一八　然せばヱホバ己の地のために嫉妬を起しその民を憐みたまはん　一九ヱホバ應へてその民に言たまはん視よ

イ耶八・二一　哀四・八　ホ箴一三・一〇　結三・一六　歴一・二　ヲ創三七・三四　埀後一・一二　伯一・二〇　ヨ番一四・一二　埀後一九　タ箴六五・八　基二・
哀三・一〇　ト耳二・二五　ヌ民二四・二三　馬三　ヲ詩三四・一八、五一　レ耳一・九、一三　ロ約一〇・一　ヘ耶九・二一　チ耶五〇・三四　默一八・八　ワ・一七　ル耶四・一　何一二・一一・二二　王下一九・四　歴五・一五　ソ民一〇・三　耳二・一　ネ出一九・一〇、二三　ナ耳一・一四　ニ詩一八・七　ヲ耶三一・一四　リ耶三〇・七　歴五・二　ヌ・二一　ル耶四・一　カ出三四・六　詩八六　ラ代下二〇・一三　ム哥前七・五　ウ結八・一六　太二三

・三五
キ出三二・一一、一二
申九・二六—二九
ノ詩四二・一〇、七九
・一〇、一一五・二
米七・一〇
オ亞一・一四、八・二
ク申三二・三六 賽

六〇・一〇

十馬三・一〇—一二
マ耶一・二四
ケ出一〇・一九
フ結四七・一八 亞
一四・八
コ申一一・二四
エ耳一・一八、二〇
テ亞八・一二 耳一・

一九
ア賽四一・一六、六一
・一〇 哈三・一八
亞一〇・七
サ雅五・七
キ利二六・四 申一一
・一四、二八・一二
ユ耳二・一一

メ耳一・四
ミ利二六・五 詩二二
・二六 利二六・二六
米六・一四
シ耳三・一七
ヱ利二六・一一、一二
結三七・二六、二七、
二八

ヒ賽四五・五、二一、
二二 結三九・二二、
二八
モ賽四四・三 結三九
・二九 徒二・一七
セ亞一二・一〇 約七
・二九
ス賽五四・一三

イ徒二一・九
ロ哥前一二・一三 加
三・二八 西三・一一
太二四・二九 可
一三・二四 路二一
・一一、二五
ニ馬四・五
ホ耳二・一〇 賽一三

・九、一〇 耳三・一、
一五 太二四・二九
可一三・二四 路
二一・二五 默六・
一二
ヘ羅一〇・一三

二〇 我穀物とあたらしき酒と油を汝におくる汝ら之に飽んわれなんぢらをして重ねて異邦人の中に恥辱を蒙らしめじ

二〇 我北よりきたる軍を遠く汝らより離れしめうるほひなき荒地に逐やらん其前軍を東の海にその後軍を西の海に入れんその臭味立ちその惡嗅騰らん是大なる事を爲たるに因る

二一 地よ懼るゝ勿れ喜び樂しめヱホバ大なる事を行ひたまふなり

二二 野の獸よ懼るゝ勿れあれ野の牧草はもえいで樹は果を結び無花果樹葡萄樹はその力をめざすなり

二三 シオンの子等よ汝らの神ヱホバによりて樂め喜べヱホバは秋の雨を適當なんぢらに賜ひまた前のごとく秋の雨と春の雨とを汝らの上に降せたまふ

二四 打場には穀物盈ち甕にはあたらしき酒と油溢れん

二五 我が汝らに遣しし大軍すなはち群ゐる蝗なめつくす蝗喫ほろぼす蝗噬くらふ蝗の蝕あらせる年をわれ汝らに賠はん

二六 汝らは食ひ食ひて飽きよのつねならずなんぢらを待ひたまひし汝らの神ヱホバの名をほめ頌へん我民はとこしへに辱しめらるゝことなかるべし

二七 かくて汝らはイスラエルの中に我が居るを知り汝らの神ヱホバは我のみにて外に無きことを知らん我民は永遠に辱かしめらるゝことなかるべし

二八 その後われ吾靈を一切の人に注がん汝らの男子女子は預言せん汝らの老たる人は夢を見汝らの少き人は異象を見ん

二九 その日我またわが靈を僕婢に注がん

三〇 また天と地に徵證を顯さん即ち血あり火あり煙の柱あるべし

三一 ヱホバの大なる畏るべき日の來らん前に日は暗く月は血に變らん

三二 凡てヱホバの名を籲ぶ者は救

はるべしそはエホバの宣ひし如くシオンの山とエルサレムとに救はれし者あるべければなり其遺れる者の中にエ
ホバの召し給へるものあらん

第三章

一　視よ我ユダとエルサレムの俘囚人を歸さんその日その時　二　萬國の民を集め之を携へてヨシヤパ
テの谷にくだりかしこにて我民我ゆづりの產なるイスラエルのために彼らをさばかん彼らこれを國
三　國に散してその地を分ち取りたればなり　三　彼らは籤をひきて我民を取り童子を娼妓に換へ童女を賣り酒に換て
四　飲めり　四　ツロ、シドンよペリシテのすべての國よ汝ら我と何のかゝはりあらんや汝ら我がなしゝことに返をな
五　さんとするや若し我に返報をなさんとならば我忽ち迅速に汝らがなしゝことをもてその首に歸らしめん　五　是は
六　汝らは我の金銀を取り我のしたふべき寶を汝らの宮にたづさへゆき　六　またユダの人とエルサレムの人をギリ
七　シヤ人に賣りてその本國より遠く離らせたればなり　七　視よ我かれらを起して汝らが賣りたる處より出し汝らが
八　なしゝことをもてその首にかへらしめん　八　我はなんぢらの男子女子をユダの人の手に賣り彼らは之を遠き民な
るシバ人に賣らんエホバこれを言ふ
九　九　もろもろの國に宣つたへよ戰爭の準備を爲し勇士をはげまし軍人をことごとくちかより來らしめよ
一〇　一〇　鋤を劍に打かへ汝らの鎌を鎗に打かへよ弱き者も我は強しと言へ　二　四周の國々の民よ汝ら急ぎ上りて集れ
一一　一一　エホバよ汝の勇士をかしこに降したまへ　一二　國々の民よ起て上りヨシヤパテの谷に至れ彼處に我座をしめて四周
一三　一三　の國々の民をことごとく鞫かん　一三　鎌をいれよ穀物は熟せり來り踏めよ酒榨は盈ち甕は溢る彼らの惡大なれば

イ 賽四六・一三、五九・二〇　阿一七　羅九・二七、一一・一一・二六　ロ 賽一一・一一、一六　耶三一・七　米四・一四　ハ 耶三〇・三　結三八・三・一二　ヘ 賽六六・一六　結三八・二二　ト 阿一一　翁三・一〇　チ 歴一・六、九　リ 結二五・一五、一六、ヌ 但一一・三八　ル 賽四三・五、六、四九・一二　耶二三・八　ヲ 耶六・二〇　ワ 結二三・四二　カ 賽八・九、一〇　耶四六・三、四　結三八・七　ヨ 賽二・四　米四・三　タ 亞一二・八　レ 耳三・二　ソ 詩一〇三・二〇　賽一三・三　ツ 耳三・二　ネ 詩九六・一三、九八・九、一一〇・六　賽二・四、三・一三　米　ナ 太一三・三九　默一四・一五、一八　ラ 耶五一・三三　何六・一一　ム 賽六三・三　哀一・二〇　默一四・一九、

ウ耳三・二　ク基二・六　フ箴三五・八、五二・一　テ詩四六・四　結四七
キ耳二・一　ヤ箴五一・五、六　翁一・一五　亞一四　・一　亞一四・八　キ耶四九・一七　結
ノ耳二・一〇、三一　マ耳二・二七　コ歴九・一三　ア民二五・一　ミ結四八・三五　耳三
オ耶二五・三〇　耳二　ケ但一一・四五　阿　エ箴三〇・二五　サ箴一九・一　ユ歴九・一五　・二七　歴二・一一　阿一〇
・二一　歴一・二　一六　亞八・三　メ箴四・四　・一七　默二一・三

なりと

一四　かまびすしきかな無數の民審判の谷にありてかまびすしヱホバの日審判の谷に近づくが故なり　一五　日も月も暗くなり星その光明を失ふ　一六　ヱホバ、シオンよりよびとゞろかしヱルサレムより聲をはなち天地を震ひうごかしたまふ然れどヱホバはその民の避所イスラエルの子孫の城となりたまはん　一七　かくて汝ら我はヱホバ汝等の神にして我聖山シオンに住むことをしるべしヱルサレムは聖き所となり他國の人は重ねてその中をかよふまじ

一八　その日山にあたらしき酒滴り岡に乳流れユダのもろもろの河に水流れヱホバの家より泉水流れいでてシッテムの谷に灌がん　一九　エジプトは荒すたれエドムは荒野とならん是はかれらユダの子孫を虐げ辜なき者の血をその國に流したればなり　二〇　されどユダは永久にすまひヱルサレムは世々に保たん　二一　我さきにはかれらが流しゝ血の罪を報いざりしが今はこれをむくいんヱホバ、シオンに住みたまはん

ヨエル書をはり